（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	マーブルスポット			
○保護者評価実施期間	令和6年　10月　1日		～	令和６年　11月　30日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	47	（回答者数）	38
○従業者評価実施期間	令和6年　10月　1日		～	令和6年　10月　30日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和６年　12月　2日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ワンフロアかつバリアフリーである。	・トイレは広く、玄関やフロアにも段差がなくバリアフリーである。 ・今年度より車椅子対応の福祉車両で送迎も可能になっている。 ・ワンフロアなので見通しがきく。開かれた空間なので虐待を防げる。	・仕切りたいときにはパーテーションで簡単に仕切ることができ、集団で活動するときにはパーテーションを動かすことで広く使うことができるので室内ではあるがドッジボールなどの身体を動かす活動もできる。 ・音が気になる時や集中したいときは個室での学習もできる。
2	・市内からいろいろな小学校の子供たちが来所している。（地域の小学校・支援学校）	・学校とは異なるコミュニティーで過ごせる。横のつながりだけではなく縦のつながりも持てる。半面、中学部・高等部の子は少ないので同年代の子とのつながりは少ない。	・季節のイベントなどでは異年齢の子供たちが遊べる機会を増やす。
3	・支援者が多種多様である。 ・夏休み中のお出かけ	・年齢や経験が違う職員がそろっている。（保育士、教員経験者・教職免許を持っている人・大学生など） ・長期休み（夏休み）は県内のいろいろなところに毎日行っている。家庭ではなかなかいけない所にも行けている。	・学習+αをしている。もともと学習に力を入れているので学習の記録も一人ずつしっかりとっていて学年末に保護者に渡す。 ・学習の内容を保護者が知ることができる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・父母の会がない。	・以前は父母の会を開催していたが、参加者が少なかったことと仕事をしている保護者が多く、参加者が固定されてしまった。	・仕事をしている保護者が多く、開催時間が問題。午前中は参加者が限られる。夕方は子どもたちが帰ってきているので見てくれる人がいないと参加が厳しいなど。
2	・地域との交流が少ない。児童クラブとの交流がない。	・時間がなかなか取れない。	・山口大学が近くにあるので山口大学のボランティアの情報を入手して子どもたちと交流してもらう機会を持ちたい。
3	・ペアレントトレーニング	・専門性の不足。	・外部講師を招いて職員も含めて研修会を開くなど検討したい。 ・保護者あての研修資料などは玄関に掲示し周知するよう心掛けたい。